



AUE News

2013年9月15日

第 68 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

目次

- 行事予定(9月16-30日)
- トピックス
 - ・キャリアデザイン講義に特別講師として松田学長ら参加
 - ・三重県立津西高校が本学見学
- 教育復興支援学生ボランティア
 - ・2013年度第4期報告
- お知らせ・報告・投稿
 - ・ダンス部が全日本高校・大学ダンスフェスティバルで特別賞
 - ・松田学長らタイ協定校で留学生リクルート活動
 - ・附属図書館で新サービス開始
 - ・催しもの案内

行事予定(9/1-15)

- 18日(水) 教授会 (13:30～ 第一会議室)
- 24日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 26日(木) 安全衛生委員会 (16:40～ 第一会議室)
- 27日(金) 9月卒業式 (講堂会議室 15:00)
- 30日(月) 男女共同参画委員会 (16:00～ 第五会議室)

トピックス

キャリアデザイン講義に特別講師として学長らが参加(9/2-4)

今年度から始まった「キャリアデザインI」(自由科目、1単位)の集中講義が9月2日(月)～4日(水)の3日間、210教室で行われました。この担当は、坂柳恒夫教授(学校教育講座)と高綱睦美講師(同)で、キャリアデザインを1年生の段階から講義し、自己形成に役立ててもらうことを目的にしています。

初日は、午前中の高綱講師の講義に続いて、午後の2コマは松田正久学長による講義。①大学史を紐解くー愛知教育大学とは? ②政府の国立大学政策と法人化 ③愛知教育大学憲章とは? ④学生支援とキャリア教育 ⑤私自身の歩んだ道を振り返って ⑥君たちが生きる時代ー若い世代への期待 ⑦大学とは、という盛りだくさんの内容でしたが、学生たちに寄せる期待や学長の思いを盛り込んだ熱のこもった講義でした。学生の感想は前向きで、学んだこととして「大学での学びは就職活動のためではなく自分の人格形成のため」「チャレンジする勇気と挫折したら後戻りする勇気」「なぜ・どうしてと自らに問う力」「弱者の気持ちに添えること」などの声が寄せられました。



2日目は、岩崎公弥理事(教育担当)と折出健二理事(総務担当)の講義がそれぞれ1コマずつ。岩崎理事は、「大学の教員に至る人生の歩み」の内容で自分史を振り返り、その話の中から「人生には何度か選択を迫られる時期があること、但し進路選択は思い通りに行かないがそれもまた人

生であること」など、学生たちは講義の中で心に残る何かを得たようです。続いて折出理事は「キャリアを拓くための生活・努力について」と題して、講義。題材は幸田露伴「努力論」を取り上げ、教育を受ける者の「正、大、精、深」を取り上げ、更に教育学との出会いについて述べました。「努力論」を通じて学生は「学ぶことの意味」を改めて問い直したようです。

学生の感想によれば、普段聞けない学長や理事の講義であること、通常の講義では聞けない内容であったこと等に深い感銘を受けた学生も少なからずいたようです。受講生は1年生で、50人弱でした。



三重県立津西高校生徒が本学見学(9/6)

三重県立津西高校の1・2年生69人が、9月6日（金）午前、大学見学に訪れました。

本部棟第一会議室での説明会では、大学紹介DVDの上映の後、津西高校出身の本学養護教諭養成課程4年生の田中加純さんが、大学で行われる年2回の「子どもまつり」のイベントの楽しさ



やボランティア活動が盛んであること、何かにつけ三重県出身者が1つのチームになって行動することなどの紹介を行いました。続いて、生徒から「愛教大を選んだ理由は？」「養護教諭を目指した理由は？」「入学前と後での感想は？」「大学以外に頑張っていることは？」「高校時代に苦労したことは？勉強方法は？」「大学は楽しいか？」「学食でのおすすめメニューは？」などと熱心に

質問があり、田中さんは、中学校の恩師にあこがれて養護教諭を目指したこと、大学では車がないと不便だと感じたこと、病院実習が良い経験になったこと、大学にはいろんなことにチャレンジできるチャンスがあること、受験勉強は高校が行う講座に参加することが役に立ったことなど後輩にアドバイスをしました。

この後、職員の案内で施設見学をして、学食での昼食をとり、さらに午前中に回りきれなかった構内を集合時間ぎりぎりまで各自で見学し、帰路につきました。

教育復興支援学生ボランティア

2013年度第4期ボランティア(報告)

一昨年から継続している震災被災地での教育復興支援学生ボランティアの派遣を宮城教育大学復興支援センターとの連携でこの夏も実施しました。

8月の第3期(8月4日(日)～10日(土))、第4期(8月18日(日)～24日(土))で合計14人が参加。今回、宮城県大崎市、南三陸町の小・中学校などで、夏休み中の児童・生徒たちの自習や部活動の支援等に活躍しました。

参加者の中から第4期グループで活動を行った杉崎奈々さん(学部1年)の体験レポートを紹介します。

*



*

仙台駅に着いた時、テレビや新聞で報道されているような震災が起きた場所だとは思えなかった。名古屋の街のように大勢の人がいて、人々は普通の暮らしをしていた。

宮城教育大学教育復興支援センターの門脇さんのお話を聞きながら、活動場所である南三陸町の志津川中学校へ向かった。仙台市から離れるにつれて、テレビの映像で見た風景になっていく。

現地に着き、戸倉・五十鈴神社まで歩いた。神社は約20mの坂を登った高台にある。地震が起きた時、戸倉小学校の児童は津波から逃れるため、この坂を駆け上がったと言う。こんなに高いところまで津波がくるとは想像を越えていた。また、津波の勢いは、「津波がくると思ったら海がまるごとやってきた」と言われるほどで、児童の恐怖は計り知れないものだったと思う。そして雪が降る寒い中、小さな社殿で児童・園児、妊婦らが一夜を過ごしたという。さらに、戸倉小の教員が、残してきた家族を心配して自宅に戻ったためにそのまま津波に流されてしまったという門脇さんのお話には胸が痛んだ。



参道を引き返すと石碑がある。そこには、犠牲者の人数や到達した津波の高さが書かれてあった。次の世代への教訓として引き継がれていくのである。最近「防災教育」の中で、過去の教訓を未来の子ども達に伝えていくことが話題になっている。石碑の他にも、何らかの方法で伝えていくべきだと考えさせられた。



震災の実状を自分の目で確かめ、色々なお話を聞いてから活動場所である志津川中学校に向かった。大変な困難を乗り越えてきた子ども達に対してどのように向き合っていけばよいのか、それが最初の心配であった。志津川中学校の先生から聞いた話では、親戚や知人を亡くした子どもは多く、ほぼ全員がなんらかの被災者とのことであった。実際に支援活動に入ってみると、生徒たちは辛そうな素振りは一切見せず、明るく元気に接してくれた。しかし、見えないところで想像以上の苦勞をしてきたと考えると、一人

一人の悲しみや痛みを、微力ながら受け止めていきたいと思った。一緒に夏休みの課題に取り組む中で、勉強の方法を身に付けさせることで、勉強の楽しさを知ってもらえるよう、自分なりに工夫を取り入れた。

震災の被災者でありながら、ボランティアに参加している仲間もいる。半壊・全壊で住む家を無くし補助を受けている、震災で家族を亡くしたと話してくれた仲間もいた。その仲間の、亡くして初めて分かった家族のありがたみの話は心に残るものとなった。ボランティア仲間をはじめ、被災者にとって震災はまだ終わっていない。「高台へ避難してください」と防災無線で呼びかけがあったものの、3階建て建物の屋上を2mも上回る津波が襲ったと言われる防災庁舎。そこの献花台には多くの観光客の姿があった。



復興半ば、私達ができることは震災があったことを風化させず、短い期間ではあるが経験したことを伝えていくことで、支援の輪を広げていくことだと思う。宿泊した民宿で出会った東京都元職員の女性は、ボランティアで訪れるのが3回目だと話していた。私もまた別の機会を利用して、ボランティアに参加し、復興支援に協力したい。

南三陸さんさん商店街の隣には、モアイ像が設置されている。これはチリ・イースター島から南三陸町に贈られた本物のモアイ像である。「モアイ」はイースター島のラパヌイ語で、「未来に生きる」という意味だ。地震と津波の脅威にさらされた南三陸町であるが、これからも海との共生は宿命である。「未来に生きる」とは、子孫のために安全で住みやすい環境づくりに努めることだと思う。そして、南三陸町の復興と繁栄をモアイ像は見守り続けることだろう。最後に、私たちボランティアを温かく迎えていただいた皆さんに感謝の言葉を述べたい。その笑顔を絶やさず、一日も早い復興を願っている。



(初等・教育科学選修1年 杉崎奈々)

ダンス部が全日本高校・ダンスフェスティバルで特別賞(報告)

本学のダンス部が「第26回全国高校・大学ダンスフェスティバル」(8月7日～10日、神戸市・神戸文化ホール)に出場し、特別賞を受賞しました。

同大会は創作ダンスで唯一の全国大会で、今年は高校105校、大学40校、合わせて約3500人が参加。「創作コンクール部門」「参加発表部門」があり、本学は両部門に出場。

ダンス部は創部4年目。昨年は初出場で創作部門入選、今年はさらに上位の特別賞。作品「mother～映し出される姿～」は、母の娘への愛情を、しなやかな動きとブラインドを用いた場面展開で表現し、「主題にふさわしい演出効果」が評価されました。

同部主将の山下明莉さん(中等・保健体育専攻2年)は、「テーマを決めてから話し合いを重ね、13人全員の気持ちをつにすることが一番大変でした。半年間かけて準備して、7月によく完成。受賞の瞬間は、みんなで泣いて、喜びを分かち合いました。来年はさらに上位に入るように頑張ります!」と笑顔で話しました。



松田学長らタイ協定校学生リクルート活動(報告)

8月21日(水)～26日(月)の日程で、松田正久学長、北野浩章准教授(日本語教育)、稲吉隆機構運営課長、宮内春奈国際交流センター職員が、本学の学術協定校であるタイのラチャナカリン・ラチャパット大学とラチャパット・チェンライ大学を訪問しました。

この訪問は、今年度より開始された名古屋大学、三重大学との連携事業「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進」の一環で、タイからの留学生獲得に向けたリクルート活動を主な目的としたものです。日本留学を希望する学生を対象としたプレゼンテーションおよび先方の教員との意見交換を行いました。また、これに併せて、本学学生が上記2校で教育実習を行う「海外日本語インターンプログラム」(国際交流基金主催)も視察しました。



両大学でのプレゼンテーションでは、本学の概要と留学生用の日本語補講を中心に紹介、参加者はメモをとりながら熱心に耳を傾け、終了後には多くの質問が寄せられるなど留学への関心の高さがうかがわれました。また、教員との意見交換では、学生交流の活性化を図るための交流プログラムについてさまざまな提案が出され、本学国際交流センターで実現へ向けて検討していく旨、確約しました。

「海外日本語インターンプログラム」の視察では、両大学で約1カ月の日本語教育実習に取り組んでいる本学日本語教育コースの学生4人(各大学2人ずつ、他にラチャパット・スラタニー大学での実習にも2人が参加)の模擬授業を観察。学生たちは慣れない環境に緊張しつつも、手作りの教材を駆使しながら真剣に授業に取り組んでいました。

この他にも、本学一行は2大学の学長への表敬訪問を行い、学生交流をはじめ、研究交流や教職員研修の実施など、多岐にわたる交流の推進に向けて一層努力していくことを確認しました。

また、ラチャナカリン・ラチャパット大学では、本学に留学経験のある元留学生7人を招いて同窓会を実施。彼らのうち大半は既に卒業し、現在は念願であった現地の日系企業に就職、通訳

として活躍しています。彼らに続き、今後より多くの学生が本学への留学で得た知識と経験を活かし活躍してくれることでしょう。

駆け足の訪問となりましたが、本学にとって初の試みであるリクルート活動や意見交換会の実施など大きな成果を得ることができ、同時に、海外で真剣に実習に打ち込む本学学生の姿に国際経験の重要性を改めて認識しました。

なお、今回は2大学への訪問でしたが、本学は現在タイのラチャパット大学9校と交流協定を締結しています。今後は、海外日本語インターンプログラム実施校であるスラタニー・ラチャパット大学を含む他のラチャパット大学をはじめ、他のアジア諸国や欧米の本学協定校においても、積極的な学生リクルート活動を展開していく予定です。

※今回の訪問について、より詳しい内容を本学国際交流センターホームページに掲載しています。ぜひご覧下さい。

国際センターURL <http://www.aichi-edu.ac.jp/cie/>

(教育創造開発機構運営課 国際交流センター 宮内春菜)



附属図書館で新サービス開始 (お知らせ)

附属図書館では利用者サービスの向上を目的に、8月28日(水)にWEBによる各手続きの導入など新しいサービスを始めました。

新しく導入しましたWEBサービスでは、図書館ホームページのOPAC(蔵書検索)画面から各自で「利用状況の確認」「図書の予約」「貸出期間の更新(延長)」をすることができ、来館せずに手続きをしていただけるようになりました。教職員については「他大学からの文献複写・図書の取り寄せ」「公費購入」も依頼できます。また、返却忘れ対策のため、返却期限が近づいたらメールでお知らせするサービスも開始しました。



施設面では利用者用パソコンをすべて新しくし、検索のスピードが向上しています。初めて書庫へもパソコンを設置しましたので、書庫での資料探しの際にご利用ください。

より快適に使っていただけるようになりましたので、新しいサービスをご利用ください。

附属図書館OPAC URL <http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/webopac/topmnu.do>

(情報図書館課 資料利用担当係長 島村瑞穂)

催しもの案内

◆2013年度防災・減災セミナー

9月17日(火) 13:00~15:00 入場無料、予約不要

愛知教育大学 第一共通棟 301室

講師: 張鋒氏(名古屋工業大学高度防災工学センター長)

演題: 「防災・減災の観点から巨大地震に対し、いかに備えるか」

対象: 本学学生、教職員、一般

問い合わせ: 法人企画部総務課

Tel 0566・26・2113

E-mail:soumu@aecc.aichi-edu.ac.jp

◆愛知教育大学 教科教育学研究部門 講演会

9月18日(水) 10:00~12:00

愛知教育大学 大学会館 中会議室

講師：竹原裕名誉教授

演題：「デザイン思考による総合的学習を考える」

問い合わせ：教育創造開発機構運営課 大久保修司さん

TEL 0566・26・2316

編集後記



台風一過で一気に秋の様相になりました。青空にほうき雲、さらりと心地よい風、木立には銀杏やドングリの実…自然豊かなキャンパスには秋がいっぱいです。あと半月もすれば後期授業が始まり、構内のにぎやかさが戻ってきます。学生たちがどんな“実り”を胸に戻ってくるのかも楽しみです。

(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二